

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語と数学は全国・都平均よりも高い。理科は、全国・都よりも低かった。国語では読み手の立場に立って文章を整えたり、根拠を明確にして考えることの無解答率が高い。数学では都との平均正答率の比較では、「関数」が差が高く、「図形」「データ活用」では少し低い。特に数学的な表現を用いて説明することができない生徒が多く、無解答率が高い。理科はすべての領域において低かった。  
○主体的に学習に取り組む生徒も多いが、問題解決に向けて論理的に考えたり、自分の意見や考えを根拠をもとに論理的に説明する、文章で書くことが苦手な生徒が少なくない。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○無解答率は減少傾向にあるが、生徒一人ひとりが考え、グループで互いの意見を出し、考えを深め、深い学びにつなげ、それを根拠や理由をもとに、論理的に説明できる場面を多く設定した授業づくりをしていく必要がある。  
○本時のめあてがどの程度達成できたかの振り返りはできているが、何が課題でどのように学習を進めていけばよいのか等の自己決定力や自己調整力を身に付けることができるように、スタンダードSの取組や振り返りの視点を明確にした振り返り、学び方に関する他の生徒の考えの共有等を行い、指導を行っていく。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

○小学校の学びの連続性を意識し、「板橋区授業スタンダード」「板橋区授業スタンダードS」に基づいた授業を行い、基礎的・基本的な学力の定着、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。  
○一人一台端末を活用し、興味関心をもてる授業、明確な発問等で気付きのある授業、課題解決的な活動、個に応じた活動、200字程度の文章で考えをまとめる活動、個人-グループ-個人で考えを深める協働的な学習を推進し、生徒が主体的に学習に取り組めるように授業改善を図る。  
○小単元ごとに100字程度の振り返りを行い、主体的に学習を調整できる力を育成する。  
○英語検定、漢字検定へのチャレンジや各種コンクール等への応募を推進し、一人ひとりの学習意欲を喚起し、力を向上させる。  
○学力向上専門員等による放課後及び長期休業中などに計画的に学習教室を実施し、学力の向上を図る。  
○SDGs・環境・キャリア・郷土愛をテーマに「課題設定・情報収集・整理分析・できることを実行・まとめ発表」を実施し、探究的な学習の充実を図るとともに、これからの板橋を語る生徒の育成を図る。  
○「M34学びのすすめ～家庭学習の手引き～」に沿った家庭学習指導の充実を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○めあての設定→自力解決→集団解決→振り返りの学習の流れを定着させ「分かる・できる・楽しい」授業づくりを行う。 ○生徒が自分に合った学習内容、方法、進度、順序を自己選択して自己決定、自己調整を図る場面を設定する。	・教科書で学ばせる視点を明示し、Input(認識)-Think(思考)-Output(表現)を意識した授業展開をする。 ・「個人-グループ-個人」で、考えを深め、根拠を踏まえた論理的な文章で表現できるように指導の充実を図る。	○各教科等の学び、学習内容面と学習過程面(課題設定-情報収集-整理分析-できることを実行-まとめ発表)を総合的な学習の時間につなげられるようにし、探究的な学習を行う。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○「キャリア教育」(職場体験、起業家教育)、「環境教育」「平和学習」「SDGs」を中心に、生活科・総合的な学習の時間の発表を動画配信し、学校間の連携を図る。中央図書館や地域との連携を推進する。 ○学びのエリアのめざす子ども像や課題を共有し、「一教科一取組」の実施及び「読み解く力」の育成を推進する。	○SDGs・環境・キャリア・郷土愛等をテーマに「課題設定・情報収集・整理分析・できることを実行・まとめ発表」を実施し、教科等の横断的な視点による課題解決的な学習、探究的な学習の充実を図り、思考力・判断力・表現力等とともに、問題解決・課題解決能力等の育成を図る。 ○地域と連携・協働し「これからの板橋を語る」生徒の育成を図る。	○授業観察・相互授業見学、ICT推進リーダーによる教員相互の端末活用の学び合いを通して、個別学習、グループ学習、習熟度に応じた学習等効果的な端末活用を推進する。 ○資料の共有、学習記録、意見(考え)の交流や比較、課題提出、発表、情報収集、共同編集や作成等授業で積極的に活用する。 ○ICTを活用した多様な学びの場を推進する。